

ご協力ありがとうございます！

【8月の寄付品】 進藤徳博、ナディア、芳賀香里、柴戸淳子、馬場雄治、進藤國之助
ゼンリン、RKB、森中恵子、稗田佳昌

体験農園だより 今年度の体験農園は夏野菜が多く収穫できました。昨年度は早々に勢いを失ってしまったキュウリや病気のためにほとんど収穫できなかったスイカが今年はたくさん収穫でき、喜んでいただきました。台風の影響はほとんどなく、ゴーヤのアーチが一部傾いた程度で済みまし。一方でなかなか草刈りやこちらでの管理作業が追い付かず、今回は参加者の皆様に大変ご迷惑をおかけしたかと思ひます。来年度はもっとしっかりと管理を進めていきたいと思ひます。また 9 月より秋冬作後期が開始します。昨年度よりもたくさん収穫いただけるように、参加者の皆さまと頑張れたらと思ひます。(飯川)

日本語のようす

8 月の終わりに、7 月に受験した日本語能力試験の結果がインターネットで発表されました。A クラスの 4 名が N5 を受験しましたが、見事に全員合格できました。今後、12 月に行われる日本語能力試験に向けて勉強を進めていきます。まずは、各クラス模擬試験を行い、現在の実力を計るところから始めたいと思ひます。残暑厳しく、日中はまだまだ暑いですが、課題を提出する人も出てきました。みんなで声を掛け合って、がんばってほしいです。

また、11 月に行われる大野城日本語スピーチコンテストの原稿作成にも数名が取り組んでいます。「わたしが思う国際交流・国際協力」というテーマで何をスピーチするでしょうか。添削は大変ですが、彼らの伝えたい気持ちが多くの人に届くといいです。がんばれ、研修生！（立石考子）



9 月の予定

- 2 日 体験農園 BBQ
- 9 日 早良高校体育祭参加
- 11 日 インドネシア技能 2 名入所
生松台ふれあい市
- 26 日 朝倉産業視察
- 30 日 こらぼら稲刈り



花火大会

8 月 2 日に研修生、スタッフで長垂の花火大会へ行きました。出発の前にスタッフが浴衣の着付けをしました。研修生達は浴衣を着るのが初めてで浴衣を着るとお腹が苦しかったりと、歩きにくそうでした。でも「今日の私たちは日本人みたい！」と言って喜んで写真をたくさん撮っていました。着付けを終えて花火会場へ行くと大勢の人で賑わっていました。研修生達は花火が上がる度に、歓声をあげて楽しんでいました！研修生達は日本の夏を堪能できたようです。

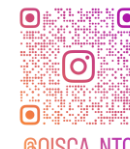


森のつみ木広場 8 月 7 日(月)福岡市東区奈多小学校留守家庭子ども会、8 月 21 日(月)には青葉小学校留守家庭子供会にて森のつみ木広場を行いました。各小学校で約 100 名の児童が参加しました。初めに日本の山林の現状から間伐の必要性、間伐材を活用した積み木製作などについて紙芝居形式で伝え、インドの研修生ドウリシャさんに母国の森についてお話してもらいました。その後、積み木遊びを行いました。初めは自由に遊んでもらいました。すると高く積み上げて遊ぶ子がほとんど。みんな同じように遊ぶのは非常に興味深いなあと感じました。次に「好きな動物」というテーマで作品を作ってもらいました。平面で表現するのは簡単ですが、立体的に表現しようとすると少しレベルが上がります。子どもたちは試行錯誤しながら各々の好きな動物を作っていました。子どもたちに尋ねてみると犬を作ったり、キリンを作ったりと、とても自由に作っており「ここが耳！ここが足！」と詳細なところまで教えてくれました。最後にグループワークとして積み上げ競争を行いました。チームで協力して一番高くなるように積み上げてもらいましたが、やはり途中で倒れてしまう場面もあり、泣いてしまう子もいました。最終的に何とか協力して積み上げることができました。

積み木広場ではただ遊ぶだけでなく、日本の山林の現状や保全活動の必要性の啓発普及、積み木遊びを通じた表現力や協調性の向上を大切にしています。これからは、さらに研修センターならではの研修生の母国の森林についても伝えていきたいと思ひます。(飯川)



まるごと!西日本



@OISCA_NTC

Instagram



facebook

発行：(公財)オイスカ西日本研修センター まるごと部
福岡市早良区小笠木 678-1
TEL(092)803-0311 FAX(092)803-0322
E-mail: oiscantc@oisca.org 検索 [オイスカ西日本](#)

2023 年 9 月号

日頃の様子を更新中！是非チェックお願いします！



株式会社木下写場創業 100 周年記念祝賀会

8 月 22 日(火)、(株)木下写場様の創業 100 周年記念祝賀会がザ・リッツ・カールトン福岡で行われました。木下写場様はオイスカ会員として長くご支援をいただいております、記念行事には海外研修生も参加をしました。会場一杯の祝賀ムード漂う中、ステージに登壇し廣瀬所長より挨拶をして全員でダンスの披露をし会場を盛り上げました。また参加者全員で we are the world の合唱し 100 周年行事をお祝いしました。挨拶の中で世界中に 100 年企業は 7 万数千社ありその 5 割が日本企業と言われている。これまで長年にわたり歴史を刻まれてこられました木下写場様の功績を称え、次の 100 年に向かってのスタートとして、これからも木下写場様の様々な行事に参加をさせていただきます。この度の創業 100 周年記念誠にありがとうございます。(満川)



ダンスの披露



歌の合唱



木下専務 木下社長



所長挨拶



←8 月 21 日、天神のソラリアでアトリエ木下様(木下写場)の写真展を見学しました！

ホームステイ

8月12日～14日、日本のお盆や一般家庭の生活などの体験を目的として、研修生のお盆のホームステイの受け入れを会員さまやボランティアの先生方をお願いいたしました。研修生にとって、初めての日本の家庭へのホームステイということで、ホームステイに行く前は緊張している様子でした。

センターに戻ってきた時には、3日間の思い出のことをいろいろと話してくれ、またホームステイに行きたいですと話しておりました。お忙しい中、研修生達をあたたく迎えて下さってありがとうございました。(園田)



農場風景

「今年の夏は暑かったですね」と毎年話しているような気がしますが、それでも毎日暑くて大変です。特にお昼前の気温はかなり高く、畑で作業をしていると汗が噴き出てきます。そんな時は、研修生が「川へ行ってもいいですか」と聞いてくるので、畑のすぐ隣にある椎葉川へ行行って20分程度泳ぐのです。脇山を流れる椎葉川の水はとても冷たく、熱くなった身体をすぐに冷やしてくれて気持ちがいいのです。そして、殆どの女性の研修生は泳ぐことが出来ないで、みんな男性の研修生から泳ぎ方を習って、一生懸命泳ぐ練習をしていました。今では少し上手になり、ちょっとだけ前へ進むようになりました。研修生にとって、日本の夏は暑くて大変でしたが、「川遊び」という楽しい思い出が出来てよかったです。(豊田)



脇山育みお楽しみ会開催

8月26日(土)、コロナ禍で長く中止となっていた「育み会」が日帰りコースで実施されました。当日は40名ほどの脇山っ子が参加して、研修生と一緒にダンスの練習をしたり、シャベットづくりなどをして楽しく交流を深めました。周りが薄暗くなってから恒例のキャンプファイヤーも行い、大きな火の周りで練習したダンスを披露したり花火をして、子ども達も夏休み最後の思い出を作ることが出来ました。(豊田)



脇山しゃくなげ会の皆様センター訪問

8月28日(月)午前10時より、脇山の高齢者のグループ「しゃくなげ会」のメンバー11名とボランティア、関係者含めて25名程が研修センターを訪問し、オイスカの海外研修生と交流を深める機会をいただきました。「しゃくなげ会」の皆さんがこのように研修センターを訪問する機会は今回が初めてで、参加者の皆さんは研修生による国の紹介を、身を乗り出して興味深く聞いてくださいました。質問もたくさん出て、一人の研修生の紹介がなかなか終わらない状況で、1時間半の交流会があっという間に終わりました。最後にダンスを披露して交流会は終了となりましたが、「こんなに参加者の皆さんが積極的に参加すると思わなかった。是非来年も宜しくお願いします」と有難いお話をいただきました。(豊田)



～会員さまご紹介～

株式会社 アーク 様

〈オイスカ入会のきっかけ〉

会員の方のご紹介により2006年10月に入会。以降、法人会員として支援を続けています。

〈オイスカへのメッセージ〉法人会員として、何度か西日本研修センターでの入所式に参加させて頂きました。各国から入所された研修生とふれあう中オイスカに入会し、支援していることに感動し、研修生が無事研修を終え自国に帰り活躍されることをご祈念申し上げます。またオイスカ様の理念に賛同し、引き続き支援させて頂きます。

〈会社紹介〉当社は大分県内にてENEOS(株)特約店としてサービスステーション10ヶ所および販売店2ヶ所で石油類の販売をしています。当社の創業は天保5年(189年)、法人設立は昭和37年(62年)の歴史を持つ企業です。今世界では石油がエネルギーとして欠くことの出来ない商品です、当社は、石油製品販売のほか、車の販売、総合メンテナンス・車検等の取り扱いで社会に貢献している会社です。活動・信頼・創造を経営理念とし、社会のために活動し、お客様から信頼され、未来を創造する企業を目指し、更なる発展とお客様から愛されるサービスステーションを目指しております。



株式会社 アーク 所在地：大分市新川西1丁目6番12号 電話：097-533-1101

ヘアードネーションについて

私は企業内転勤として西日本研修センターで昨年の8月から勤務をしているミャンマーのティンと申します。以前ミャンマーでヘアードネーションのことを知り、その後人の役に立ちたいと髪を伸ばし始め、今年の6月に腰のあたりまで伸びていた髪を30センチほど美容室で切りました。はじめてのヘアードネーションでしたがオイスカを支援していただいているライオンズクラブのアクティビティ事業を通して寄贈をしました。この度7月22日に福岡リハビリライオンズクラブの方が来所され感謝状を贈呈していただきました。また日本に滞在中に髪が伸びたら寄贈したいと思っています。(ティン)



福岡リハビリLCの西島会長



感謝状贈呈

そば打ち体験

8月4日に福岡そばの会の皆さんがセンターに来所し、研修生にそば作りを教えてくださいました。初めにそば作りの全行程を見て、次に研修生達が作りました。研修生達は「そばの作り方を見た時は簡単そうだったけど、作るのは難しかったです。」と言っていました。出来上がったそばを昼食時に頂きましたが、一段と美味しかったです。

8月下旬にそばの会の皆さんと一緒にそばの種まきをしました。収穫してまたそばを作るのが楽しみです!(園田)



OB 研修生リー帰国

8月7日にパプアニューギニアのOB研修生のリーさんが帰国しました。帰国日には福岡空港にたくさんの方々がお見送りに来てくれました。

リーさんは昨年5月にOB研修生として二度目の来日をし、農業実習はもちろん研修の合間に居合道の練習も続け、今年の試験で初段を取ることができました。

リーさんは今後オイスカラバウルセンターで魚の養殖や、自分の故郷ではオイスカミリンベイ組合を作りたいそうです。皆様応援よろしくお願い致します!(園田)



カンボジアツアー

8月21日(月)～26日(土)にオイスカふれあいの翼カンボジアツアーを実施いたしました。目的は OBOG の活動視察で、「子供の森」計画(CFP)への参加および帰国後の活動現場視察を行いました。今回は宮崎推進協議会から1名と高校生3名の計4名がご参加されました。うち高校生2名は初海外で、全員が初めてのカンボジアでした。

OBOG が行っている CFP 活動ではコンポンチャム州チュンプライ中学校とハンチェイ小学校の2校に4種類の樹木を、それぞれ150本ずつ植樹しました。子どもたちとはお互いに言葉がわからず話すことはできませんでしたが、共に植樹を行うことで心は通じ合ったように感じます。チュンプライ中学校では子どもたちが踊りを披露してくださり、共に踊って楽しみました。その後、ソーラン節を少しだけ披露し、参加者の高校生の一人が書道部に所属されていたので習字を披露してもらいました。2校とも飴やボールペンなどのプレゼントを贈りました。

その後、OG ビーさんが現在、代表を務める NGO 団体 BSDA の視察を行いました。BSDA は 2005 年に設立され、特に女性や子ども達を対象とした生活の改善を目的とした職業訓練や就労支援、貧困層の子ども達を対象にした教育支援などを行っています。ビーさんは元々 BSDA の OG だったそうです。今回のツアーではコンポンチャム州内にある宿泊施設 Hanchey Bamboo Resort と飲食店 Smile Restaurant、職業訓練学校 Smile Institute、Mekong Kampuchea Kids の4施設を視察させていただきました。どの施設も一貫して、技術を身につけ、卒業後は就労しながら、それぞれの道を歩むことができるとも良い活動であると感じました。一方で栽培技術や日本食の調理技術などを勉強させたいとの想いもあり、是非、当センターとも共同プロジェクトを行えたらと話していました。

そのほか現地ガイドや OBOG にご案内いただいて、観光を行いました。私自身、オイスカスタッフとしての初の海外、初めてのカンボジアということもあり、大変学びになりました。簡単な感想としては、日本は可住地面積が国土の30%ということもあり、カンボジアの広さを実感しました。一方で農業という面で考えると機械化が進んでおらず、農作業を行うのはとても苦勞が必要で、盆地ということもあり雨による畑の浸水被害もあるとのことでした。鉄道や高速道路といった交通網も発展していないようで、なかなかハードルの高い現場であると思いました。これからもカンボジアとの関わりは続いていきますので、協働で環境を改善していきたいです。(飯川)



OB ワンナさん、パニャさんと合流



チュンプライ中学校での記念撮影



生徒を代表してメーサ君へプレゼント



Mekong Kampuchea Kids での記念撮影



広大な畑



アンコールワットで記念撮影

第 25 回オイスカ佐賀・ラブグリーンの翼 夢の島国フィジーツアー(5日間)参加

8月4日～8日にかけて、オイスカ佐賀県推進協議会主催のフィジーツアーに参加してきました。今回の参加者は、オイスカ佐賀県推進協議会岩尾会長を団長とし、オイスカ佐賀県議連より4名の先生方にも参加していただき、総勢15名でのツアーとなりました。

8月4日福岡空港を出発した一行は成田空港まで国内線で移動し、夜9時半ごろの出発で翌朝5日ナンディ国際空港に到着しました。フィジー滞在中の主なスケジュールについては、1日目がオイスカフィジー研修センターで歓迎会と活動の様子を見学。2日目には「子供の森」計画参加校での山での植林と、コロトゴ村でマングローブの植林。そして3日目最終日には、フィジーの首都スバにある日本大使館での大使表敬訪問とOBの活動現場への訪問をしました。毎日ハードなスケジュールをこなしながら現地の方々と交流を深める機会を持ちました。

実際に現地には3日半の滞在で、そのうちの3日間は雨や曇りの天気でちょっと残念ではありましたが、最終日には清々しい晴天となり、とてもきれいな青空ときれいな海が私たちを歓迎してくれました。そして、日本で研修を受けて帰国したOB研修生の活動現場への視察も含めて交流を深める機会を持つことが出来て、大変充実した有意義な時間を過ごすことが出来ました。フィジーは日本から遠く離れた南太平洋の島国ではありますが、中国の海洋進出など様々な外部からの脅威にさらされている面もある中で、35年以上にわたって活動が続けてきたオイスカの人材育成事業は、今後のフィジーにおける農業の発展やリーダー育成のために益々重要になっています。現地で活躍するOB研修生に対し、今後も継続的に応援をしながら、プロジェクトの発展をサポートしていきたいと思います。(豊田)



歓迎セレモニー後の集合写真



植林活動



マングローブ植林地の視察



子ども達による踊りの披露



フィジー大使表敬訪問

OB の紹介 今回紹介するOB研修生は、今回オイスカ佐賀県推進協議会主催のフィジーツアーで訪問した、シティベニさんを紹介します。シティベニさんは、今年の3月に帰国した研修生ですが、今回のツアーのスケジュール作成で早い段階から彼のプロジェクト視察が組まれたことから、農場の充実と環境整備を今日まで行ってきました。

シティベニさんの家は、首都のスバから車で30分程度移動したところにあり、非常に立地が良く、小高い丘の上にある家の庭からスバの港を行き交う船がよく見えます。彼の所有している土地は主に山林ですが、その面積は果てしなく広く、今後その山林を重機で切り開き、ショウガの栽培を中心に、ライムやタロイモなどの栽培を手掛けていくとの事でした。

現在畑では、ナスやニンジンなどの栽培を行っており、とてもきれいに管理されていました。そして、5年後には見晴らしのよい場所に小さなホテルを建設したいとのプランも話してくれました。多くの夢を語ってくれたシティベニさんの眼はとても輝いていて、その内容も決して夢ではなく、近い将来実現してくれるものと確信しています。これからのシティベニさんの活躍に大いに期待したいと思います。



シティベニさんの農場の視察

